

全釧路情報

2015.12.25 No.31 全釧路教職員組合

憲法違反「クリアファイル調査」問題のその後 釧路市議会ではこの調査への質問を議会だよりに掲載!!

▼「クリアファイル調査」問題のその後の状況

道高教組が作成した「アベ政治を許さない」クリアファイルをめぐり調査問題ですが、11月2日には全教から小畑書記長と加藤弁護士が来札し、道教委への申し入れと市民集会に参加しました。その後も道高教組は、道教委へ調査中止、さらには再調査中止を求める申し入れを計3回行っています。

11月25日から始まった第4回定例道議会での質疑に注目が集まりましたが、当の藤澤議員の発言通告はありませんでした。12月7日(月)の予算特別委員会で自民党の笠井龍司議員(釧路選出)が質問しました。それに対し道教委は、調査結果は精査中としながら「人事院規則が教職員に禁じた『政治的行為』に抵触する回答はなかった」「服務規律の徹底を指導する必要がある」「道高教組への対応を含めて、今後の指導等の在り方については、調査結果とあわせて早急に示していきたい」と説明・回答しています。

アベ政治を許さない

▼前代未聞、市民無視の「議会だより不掲載」問題

クリアファイル調査について、釧路市議会で共産党梅津議員が質問をしました。①「道教委の『違反行為の具体例』において、『(アベ政治を許さないクリアファイルを机の上に置く行為は)直ちに規則第6項に規定する政治的行為にあたるとは言えないが、保護者や児童の目に触れ誤解を招く恐れがある』としている。しかし、流行語大賞として、ほとんどの国民の目に触れている言葉が『誤解を招く』と言えるのでしょうか？」②「クリアファイルを見たときの状況(いつ、どこで、だれが、どのように使っていたのか)を記入してください、というアンケート内容は密告のようなことはありませんか。適切なアンケートと言えるのか、お答えください」という内容です。

この梅津議員の質問について、「アベ政治を許さない」の文言が「馴染まない」「適切ではない」として、議会だよりに掲載しないというのです。何が「不適切」だというのでしょうか。都合の悪いことは市民に知らせないなどということが許されていいのでしょうか！

「市民の知る権利侵害」と大きく見出しをつけた道新の記事では、「少数政党の意見を押しさえ込む動きは市民の知る権利の阻害につながる」「そもそも政治活動で政権批判の表現があったとして何が問題なのか。議員活動への過度な介入だ。議員活動の自制につながれば、権力に対して議会は拍手するだけの御用機関になってしまう。」との専門家の声も載せています。

▼民主主義を壊す言論統制は見過ごせません！

クリアファイル調査への質問の他にも、松永議員が質問した、市長が後援会からの巨額の借入金を資産公開に記載しなかった問題についても、不掲載となっています。

これらの問題について、12月20日(日)に緊急市議会報告会が国際観光交流センターで行われました。会場に入りきれないほどの参加者が集まり、この



問題への関心の高さを感じました。二つの不掲載問題や議会内の様子について議員による報告の後、弁護士など11名の市民が発言し、意見を述べました。

上川管内美瑛町では、社会福祉協議会が「皆で考えよう安全保障法案」とチラシに掲載したことに対して自民党美瑛支部が関係者の処分や辞任を求め、理事4人が退任に追い込まれるということもありました。

議会では政権批判を認めない。社会福祉協議会が「みんなで考えよう」と呼びかけることも認めない。そして、学校では政治を話題にすることも認めない。戦前の言論統制をも彷彿とさせるようなこれらの問題を、私たちは黙って見過ごすことは出来ません。

▼言論の自由、民主主義を守るために、声を上げよう！

組合の事務所には、市内在住の先生からもこの問題について声が寄せられました。「一人の市民として市議会や議長に抗議の意を伝えることにしました。」という報告と、「速やかに市民の声を伝えなければ」という思いです。抗議文の一部を抜粋して紹介します。

市議会広報に道教委の調査と市長の資産公開記載漏れに関する質問について載せない決定をされたことに、市民として怒りと失望の意を伝えます。

現政権の運営に賛成の立場を取り、広報不掲載の考えを持つみなさま、
もうあきらめてはいかがでしょうか

あなた方がそのように隠そうとしたり、触れないようにしたりすればするほど、あなた方が広めたくないであろう「アベ政治を許さない」という言葉はさらに目立ち、広まってゆくのです。もう今年の流行語にノミネートされていますから、広報に載せようが載せまいが人々は知っているのです。抗議集会やデモが続く中で今さら押さえ込もうとしても遅いのですし、あなた方の行動がかえって不可解に見えて仕方ありません。

この度、私の好きな釧路がこんなことで有名になってしまい、本当に悲しい気持ちにさせられます。私には子どもたちの全国テストの点数が良くないことよりも、こんな風に、市民の代表であるにもかかわらず、市民よりもおかみの顔色を窺ってだんまりを決め込む方々がこんなにもたくさんいるということの方がよほど問題だと思えます。「どんなにがんばって勉強したとしても、結局は世渡り上手、ゴマすり上手の人間の方が得をする」と、あなた方が未来ある子どもたちに対して見せているのですから。

市議会のこの問題に対して、見過ごせないと自ら行動し、思いを寄せてくれた組合員の奮闘に、私たちも勇気をもらいました。みなさんも、思いを寄せてください。お便りで紹介します。

▼「全体主義の芽を摘む」～朝日新聞記事から

12月1日の朝日新聞に、ナチスの強制収容から逃れたボリス・シリユルニクさんのインタビュー記事が載っていました。「全体主義の芽」はどこにあると感じるかとの問いに対してのシリユルニクさんの言葉が、最近の社会の状況とも重なってくるように思っています。一部を引用します。

国力が弱くなっているとき、社会が混沌としているときは英雄が求められる。カオスか私かどちらかを選べと迫りながら、権力を掌握していく。同じフレーズを繰り返し聞かされることで思考が停止する。討論を認めない文化では扇動者が世論を支配するようになる。そして全体主義に身を委ねていく。

民主主義は手間のかかるシステムです。他人と対話をして、異なる価値観も受け入れなければならない。相手を理解するには、知識も身につけなくてはならない。これに対して全体主義は、みんなと同じことをオウムのように繰り返しているから楽だし、仲間にもなりやすい。そのうち、自分たちとは異なるものを軽蔑するようになります。そして他者を抑圧することを罪とは思わなくなる。（ナチス政権下での戦争犯罪者を裁いた）ニュルンベルク裁判で多くの被告が罪など犯していない、従っていただけだ、と言いましたね。

私たちは、「公教育」「政治的中立性」という言葉に対して必要以降に口を噤み、「求められる教師像」を忖度して、考えること、議論することをやめてしまっただけではないかと思うのです。フランスでは、デモが必要なものであるという共通認識があり、国家公務員も積極的に参加するといいます。「税金によって身分が保障されているのだから権力の行いに『ちゃんと批判を行う』ことが義務である」というのです。今の世の中に対して私たちが出来ることは何か、考えさせられます。